

平成15年度幼児読書講演会要旨

子どもと絵本

正高信男 氏（京都大学霊長類研究所助教授）



人間は、生まれた国の文化などによって違いがありますが、必ず一つの言語を習得する宿命にあります。その言語習得の過程で重要なのが育児語（motherese）です。

育児語とは、大人が幼い子どもに話しかける時の特徴的な言葉です。大人に向かって話しかけるときよりも高く、抑揚が誇張される傾向があります。赤ちゃんは、高く抑揚が誇張された声を生まれながらにして好みます。なぜなら、世の中は音が反乱しており、どの音に注意を向けたいのかわかりません。そのため赤ちゃんは、本能として特定の種類の声に気が向くようになっているのです。もっとも、経験を積むことで美的感性が養われていくので、成長とともに声の好みは変わっていきます。

育児語には男女差があります。女性の声は、もともと男性に比べて高いのですが、育児語になると圧倒的に高い声になります。一方、男性の声は、抑揚がより大きくなります。これは子どもに絵本を読むときも同じです。高ければ高いほど、お話をよりおもしろくする効果があります。抑揚が大きいほど、怖い話をより怖くする効果があります。子どもに安心を与えるだけではなく、恐怖や危険を知らせ抑止することも必要ですが、抑止は抑揚が大きい育児語で話しかける父親の方が、よりうまく与えることができるといえます。

特にどんな時に育児語を使うかという、赤ちゃんが笑っているのを見たときです。赤ちゃんが笑いかけた（ように見えた）時、大人は自然と育児語で話しかけています。しかし赤ちゃんは、本当に笑っているわけではありません。生まれたばかりの赤ちゃんの笑顔は新生児微笑といえます。赤ちゃんが眠っているときによく見られますが、何時間おきというように機械的に起こります。また、生後6ヶ月くらいの赤ちゃんの笑顔は社会的微笑といえます。顔状のものが目の前にあると笑った顔をするのです。けれども親たちは、自分たちに向かって微笑みかけてくれたように感じて喜びます。これは親バカともいえますが、赤ちゃんは親たちに親バカをさせようとしています。赤ちゃんの笑顔を見てかわいいと思わないようにすることは、ひじょうに難しいことです。赤ちゃんは、大人たちにかわいいと思わせ、自分と会話してくれるようにしむけているのです。

このことは、これから言葉を習得しようとしている赤ちゃんにとってひじょうに大切なことです。生後9ヶ月の赤ちゃんは、会話を通じて言葉を記憶しています。たくさんの言葉を聞いて、心にためて、自分が記憶したものの中からおしゃべりをするようになるのです。逆に言えば、話しかけてやらないと、ますますおしゃべりしないのです。

しかし最近、子どものあしらい方を経験せずに大人になり、自分に子どもが生まれた時「赤ちゃんにどうやって言葉をかけたらよいのか分からない」と悩むお父さんお母さんがよく見られます。そんなとき、絵本を道具として赤ちゃんとお話してはどうか、ということでブックスタートなどで絵本がすすめられています。

子どもはお話を無条件に好みます。しかし、絵本が好きではない子どももいます。その原因はまず、読む大人の読み方が悪いことが第一にあげられます。ぞんざいに読むのではなく、自分自身が楽しまなくてははいけません。子どもの目を見て笑いかけながら丁寧に読むことが大切です。時にはアドリブも入れながら、子どもとお話するという気持ちで読むとよいでしょう。もう一つ原因として考えられるのは、次々と違う絵本を読むことです。子どもはいろいろな絵本を読んでもらいたいと思っていません。大好きな絵本を繰り返し読んでほしいのです。

また、よく良い絵本とはどんな絵本かということも話題になりますが、世の中に良い絵本悪い絵本というものはありません。何度も「読んで」と言ってくる絵本が良い絵本です。こんなとき大人は辛抱して、子どもが好きであるならば何度でも読んでやるのが絵本好きにするコツです。そして絵本の読み聞かせというと母親の仕事と思われがちですが、父親もやらなくてははいけません。

育児語を使う割合は、母親であれば9割方が使います。しかし父親、特に都会の父親は育児語を使いません。これは、父親の影響力が希薄化していることと無関係ではありません。今の子どもたちは母親の影響力が強く、父親の影響力がとても弱いです。日米の3歳児について、攻撃性、社交性、不安について調査したところ、両国とも社交性は同じくらいありましたが、米国の子どもは攻撃性・不安が高く、日本の子どもは低い、という結果が出ました。つまり日本の子どもは、怒りっぽくなく、恐怖も示さず、他の子とうまくやっています。これは母親のしつけが行き届いているからでしょう。しかし、3歳の子どものにとって、攻撃性が低いということは決してほめられることではありません。攻撃性は自我の芽生えとして不可欠なものです。

また日本の学校教育は、子どもに対して万能感を植え付けますが、世の中は思うとおりにならないこともある、とは教えません。そのため、思春期になって自己表現できないストレスを生じて、挫折を乗り越える力が育っていません。経験がないからくじけることに弱いのです。さらにまじめな子どもは、乗り越えられない自分が許せないために、ひきこもりや不登校といった行動をとります。また逆に、全くうまくいかないことは考えずに脳天気暮らし、パラサイトシングルという現象も生まれました。

今の子どもたちの問題としてよく取り上げられるいじめについても、その原因として受験ストレスがあげられることがあります。中学校3年生になるといじめが減り勉強するようになるという調査結果があり、受験ストレスがいじめの原因とは考えにくい面もあります。しかし受験ストレスをなくすために、ゆとり教育、中高一貫教育などと言われています。これは問題を先送りしているだけで、社会へ出ればストレス、挫折なしでは生きられないのです。

小さいときから、安全の基盤だけでなく「プチ挫折」を反復して与え、自立を促すためにも、父親も母親も子どもとたくさん会話をかわすことが大切です。

(平成15年4月27日岐阜県図書館多目的ホールにて。参加者190名)

4 , 5月の行事報告

5月5日(月) お父さんお母さんのための読み聞かせ講座

(11:00 ~ 14:00 ~ 会場：岐阜県図書館おはなし室)

絵本の読み聞かせをまじえながら、家庭での読み聞かせについて当館職員が説明。
各回とも数名の保護者とそのお子さんが参加。

5月24, 25日(土、日) 消費者月間2003 inぎふ

(両日とも 10:00 ~ 17:00 会場：マーサ21セントラルコート)

(社)岐阜県消費生活協会主催の上記イベントに協賛し、絵本の展示と絵本選びの
アドバイス、かんたんな工作・折り紙の各コーナーを担当。連日盛況で、たくさん
の親子が絵本を楽しむ姿が見られた。



子ども向け行事予定

7月 5日 (土) 13:30~15:00 たんぽぽ・朗読の会

7月23日(水)、30日(水)、8月6日(水) 紙芝居の会(アクティブGにて)

各日とも 13:00~ 14:00~

この他の夏休み期間中の子ども向け行事は「[ぎふけんとしょかん夏休みカレンダー](#)」を
ご覧ください。

おはなし会の予定は「[平成15年度おはなし会日程](#)」をご覧ください。

行事の予定は都合により変更することがあります。

行事に関するお問い合わせは岐阜県図書館まで(058-275-5111)